

アキレ・ラウロ号占拠の鬭争主体の乗ったエジプト機は、一〇月一一日、米軍機四機にハイジャックされ、シシリーア島に強制着陸させられ、闘争は米国の国家テロをもつて終焉した。イスラエルは、"テロルにはテロルを"という行動原理に基づいて行動してきた。今米国政府は、自ら"反テロ"の名の下に、公然たるテロ攻撃を開始した。国家関係をも無視し、自国の法の名の下に、全てを正当化して、TWA機占拠闘争等の

手痛い敗北のうっふんをはらすかのよう、米英のマスコミは、レーベンの断固たる"攻撃"を賞讃している。しかし、アラブの諸紙はこぞって、米政府の"海賊行為"を非難し、九月、米特使マーフィとヨルダンアラブ人民は反米闘争にたちあがつていている。はしみをつけた米国・イスラエルのテロ軍事行動は活発化していく。いくらだろうが、アラブ人民はますます反米行動を活発化していくだろう。訪問の際、兵器売り込みとひきかえという形で、PLO代表と英外相が会見することをサッチャーが確約し

1 "反テロ"の名の下のテロ軍事行動

たの機に、アラファト派は、その会見を足場に米国との交渉を進めようとしている。

他方において、九月二五日、PLOアラファト派の責任とみられるグループがキプロスのラルナカ港に停泊中のイスラエルヨットを襲撃した。

# 月刊 中東レポート

第5号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533

編集 J.R.A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費20000円

## 目次

帝国主義・イスラエルによるPLO解体策動とレバノン左派の前進	1
トリポリ市攻防戦問題	5
カチク・バビアキン議員(アルメニア人)のインタビュー(抄訳)	7
イスラムの立場の基本10項目	8
レバニーズ・ウォーシズの譲歩	9
パレスチナ・ヨルダン合同代表団の一人に指名されたハンナ・シニオラ氏インタビュー(全訳)	9
セイイン国王インタビュー(全訳)	10
「トリポリ戦争の再発はない」	12
トリポリ合意	14
激動の中東ドキュメント(1985年9月11~10月7日)	14
第2号・第3号正誤表	18

占拠し、パレスチナ人の釈放を要求、やはりモサド要員と思われる残り二人を射殺して、作戦主体はキプロスに投降した。「ニューズウイーク」誌によると、二六日、イスラエル首相ペレスは、主要七閣僚を招集して対策を協議した。シャロンはアンマのPLO事務所攻撃を提案したが（イスラエルは西岸のパレスチナ人の軍事行動をアシマンにいるアブジハドが指揮していると考えている）、行方であります、「テロリズムに対する正義性ある武器売却が米議会の論議的となつていていた）。

PLO事務所に対することを明確に知らせるだろう」と語った。レーガン

政権は、ヨルダンには手をつけないように間接的にイスラエルに警告したという（時に、ヨルダンに対する武器売却が米議会の論議的となつていていた）。

かくして、イスラエル機は、チュニスのPLO本部襲撃準備を開始し、一〇月一日決行した。二四〇〇キロ離れたチュニス攻撃には、F16A八機をはじめ三六機が参加した。イスラエル機は、フォース一七司令部を

一〇月七日夜、地中海巡航客船アキレ・ラウロ号は、アレキサンドリアを出航四時間後、四人のパレスチナ人によって占拠された。作戦主体は、シリアのタルトゥス行きを命令し、タルトゥスでシリ

アの入港拒否にあうと、ポートサイドに向かい、そこでエジプトに投げた。その間、米人一人を射殺している。この作戦は、PLF（パレスチナ解放戦線）アッバ

ス派によって担われたといわれている。シリアとの関係改善は、直接的利益になり、政治的に安定させると同時に、経済的利益としても、シリアとし、経済関係を拡大することの利は大きい。そして、アラドサミット開催は、シリアのレバノンにおける役割を確認することになり、シリアのアラブにおける政治的立場はうち固められる。

ヨルダンのめざしているのは、隣国との平和共存に基づく資本主義的関係改善の合意に達したこと、アラブとの関係改善の合意に達したこと、アラブのための障害は第一にイスラエルであり、第二にシリアである。イスラエルとの関係では、この間アンマラノンにおけるシリアの役割が認められることになり、シリアのアラブにおける政治的立場はうち固められており、これがそのまま永続するに難なく成功した分だけ、米英マレバノンにおけるシリアの役割が認められつつある今、シリアとの関係改善は、アラブ世界における政治性として大きい。ただし、ヨルダンは、シリアと路線的に相入れないことを熟知しており、これがそのまま永続的関係強化につながるとはいえない。

ヨルダンは、サッチャードが訪問した

「反テロ」テロ行為は、米人射殺を口にトリボリで戦闘が始まつた。トリボリはレバノン北部最大の都市、港町として栄えてきた。八三年末、キヤンプを中心に拠点を築こうとしていたアラファトとその軍団は、パレスチナ解放勢力内の戦闘で、トリボリを撤退した。以来、アラファト派から大量の武器・物質を譲り受けた

「イスラム統一運動」（「Tawheed」、英語で Islamic Uniti

Mと略す）は、港をはじめ、トリボリを掌握してきたといわれている。

アラウイ教徒の武装組織、アラブ民

主党（以下FADPと略す）は、IUMとの戦闘をくり返してきた。レバノンにおける進歩勢力の統一の動き、右翼側の統一の動きとシリアの調停的役割の受け入れ、右派擁

点ザハーラからの右翼民兵の自主的撤退、シリア軍支援の下でのレバ

ノン軍による統轄という全体的流れの中で、トリボリとサイダは次の

焦点になるとみられていた。IU

Mはスンニ派であり、全世界のイスラム化をめざす組織である。シリ

ア・ソ連との関係改善の姿勢をみせ

ている。現在のままでは、シリアによるアンマ合意は壁にぶちあた

っている。現在のままで、エジプトによるアンマ合意は壁にぶちあた

っている。ヨルダンがシリアとの戦略的同盟をみせ

占拠し、パレスチナ人の釈放を要求、やはりモサド要員と思われる残り二人を射殺して、作戦主体はキプロスに投降した。「ニューズウイーク」誌によると、二六日、イスラエル首相ペレスは、主要七閣僚を招集して対策を協議した。シャロンはアンマのPLO事務所攻撃を提案したが（イスラエルは西岸のパレスチナ人の軍事行動をアシマンにいるアブジハドが指揮していると考えている）、行方であります、「テロリズムに対する正義性ある武器売却が米議会の論議的となつていていた）。

PLO事務所に対することを明確に知らせるだろう」と語った。レーガンは、アラブ側のイスラエル・米国非難の声の高まりにあって、「理解し得るが、許すべきではない行為」と改めはしたが、レーガン政権の本性は第一声に鮮明にあらわされている。一〇日朝、ポートサイドにアキレ・ラウロ号が停泊後、ホワイトハウ

スの地下に陣どっている「反テロ」チームは、作戦主体がエジプトにいるとの情報を得て、作戦主体逮捕のための活動を開始した。彼らは、二つの作戦を考案した。「我が友人たちは輸送機をうちおとすか、我々が強制着陸させるか」と。そして、レーガンの「作戦GO」のサインをうけた後、四時すぎに、カイロ北東の空軍基地を飛びたったエジプト機を飛行した。エジプト機が抵抗しなかった場合ミサイル発射の権利が与えられた。カイロとの交信を完全に妨害され、撃墜の威嚇を受けたエジプト機は、容易にF14Aの脅迫に従わされた。F14A機には、エジプト機が抵抗した場合ミサイル発射の権利が与えられた。カイロとの交信を完全に妨害され、撃墜の威嚇を受けたエジプト機は、容易にF14Aの脅迫に従わされたのだ。

この米国の国家の法の名の下の「反テロ」テロ行為は、米人射殺を口にトリボリで戦闘が始まつた。トリボリはレバノン北部最大の都市、港町として栄えてきた。八三年末、キヤンプを中心とした拠点を築こうとしていたアラファトとその軍団は、パレスチナ解放勢力内の戦闘で、トリボリを撤退した。以来、アラファト派から大量の武器・物質を譲り受けたアラウイ教徒の武装組織、アラブ民主党（以下FADPと略す）は、IUMとの戦闘をくり返してきた。レバノンにおける進歩勢力の統一の動き、右翼側の統一の動きとシリアの調停的役割の受け入れ、右派擁

点ザハーラからの右翼民兵の自主的撤退、シリア軍支援の下でのレバ

ノン軍による統轄という全体的流れの中で、トリボリとサイダは次の

焦点になるとみられていた。IU

Mはスンニ派であり、全世界のイスラム化をめざす組織である。シリ

ア・ソ連との関係改善の姿勢をみせ

ている。現在のままで、シリアによるアンマ合意は壁にぶちあた

っている。ヨルダンがシリアとの戦略的同盟をみせ

ている。現在のままで、エジプトによるアンマ合意は壁にぶちあた

っている。ヨルダンがシリアとの戦略的同盟をみせ

派の三者会議には、ドルーズ・アマル・レバニーズ・フォーシーズの代表三者が参加しているが、スンニ派は参加していない。スンニ派は全体として民兵組織をもたず、PLOがレバノンに強固な物質基盤をもっていた。時代には、それに依拠してきた。西ペイルートではナセリスト潮流のスンニ派民兵組織ムスタブトゥーンがあつたが、アマルとドルーズに攻撃されて力を失った。その後は、トリボリのイスラム原理主義グループのIUMと、サイダのムスタファ・サードを中心とする民兵組織がスンニ派の民兵組織を維持してきた。スンニ派総体としては、グラント・ムブティ（総司教）のハッサン・ハリド師に代表されるように、八四年のモスリム教徒全體で合意した内容である。「イスラム基本一〇項目」をもって、現在の政治改革へのぞんでいる。これは、NUFの綱領の基本となつてゐるもので、現在の政治改革の方向を、スンニ派もまた支持している。しかし、港等の特権の維持や武装自衛の問題では、地域的に宗派対立として戦闘が拡大していくものとなつてゐる。トリポリのIUMは、進行するレバノン政治改革・国民和解により残される形となつて、焦りを持つた。

戦争自身、イラン革命勝利からまもなくして起つたことは、米国の意向に合致するものだつたし、その持続は、米国の中東における戦略展開

上に有利な状況をつくつた。この四年間、米国の中東における戦略展開は、スンニ派もまた支持するものだつたし、その持続は、米国の中東における戦略展開

唯一シリアの進めていいる反米反イスラエルの包括的中東和平の戦術（味方内の一定の妥協を含む團結）の力によつて戦争をおしとどめる要素が存在している。

イラクはまた、アラブにおける反帝の指導権がシリアにある現状に對して独自にパレスチナ解放勢力、とくにアラファト支持潮流に対するテロ入れを強化する方向にある。反シリヤ、反イラク、反ソ連の活動拠点としての役割を強めようとしている。

シリア・ヨルダンの関係改善の進行に比して、シリア・イラクの関係改善が進んでいないのは、イラク側の

アドサミットでは、アンマン合意の取り扱い、レバノンにおけるシリヤの役割の評価と支援の問題に焦点があつてられる。

イラクは最近、シリアに対し、レバノンをその戦闘のくり返しから救うよう呼びかけた。それは、ガルフ諸国によるレバノンにおけるクウェートは最近、シリアに対し、レバノンをその戦闘のくり返しから救うよう呼びかけた。それは、ガルフ諸国によるレバノンにおけるクウェートは最近、シリアに対し、

シリアの役割に対する最初の公然たる支持・支援として受けとめられて

いる。クウェートの支持は、サウジアラビアの路線展開にそぐわないため

他ガルフ諸国との支持の表明である。そして、今回の二つの作戦を契機となる、アラブ世界における反米・反

ペレスチナ問題に直接関わりはない以上、シリアとの関係性はさほど重要ではない。ただし、イランとの存在は大きく、軍事的対決に到ら

意は結局棚上げにされる運命にあり、

1985年12月25日 第5号

のらせていた。

今回のトリボリ戦争の発端は、アラブ教徒が殺されたことで、ADPとIUMの対立が一挙に激化したことにある。ADPの当初示した交渉条件は、①現在の戦闘の直前にトリボリでおきたアリ・イブラヒムとハッサン・ホーデウルの殺人者の逮捕、②アラファト派の市内への進入を停止させるために、レバノン・シリヤ軍を入れること、港地区に、③市内における政治活動の自由の保証、④八四年九月のダマス合意の実施、といふものだった。IUMのリーダー、シャバーン師は、この提案を拒否、戦闘は拡大を続けた。ADP側には、レバーン師は、この提案を拒否、戦闘

には参加しなかつた。トリボリ出身の首相カラミ宅で、IUM、ADPそしてシリア軍の参加で、停戦交渉は続いたが、武装解除、シリア軍の展開をめぐつて交渉は難航した。月末の砲撃戦は、負傷者の救出もしえないほど、激しいものとなり、シリア軍は、アサドとイランのクメニ師に停戦のための仲介をよびかけ、イラン側がシャバーン師を説得して、一〇月四日ダマス

の展開に続く、トリボリへのシリア軍の展開は、シリアの直接的支援によるレバノンの国家再建が大きく進んだといえる。レバノンにおける「群雄割拠」という在り方から、統一

Pも参加した。シリア軍は直接戦闘には参加しなかつた。トリボリ出身の首相カラミ宅で、IUM、ADPそしてシリア軍の参加で、停戦交渉は続いたが、武装解除、シリア軍の展開をめぐつて交渉は難航した。

月末の砲撃戦は、負傷者の救出もしえないほど、激しいものとなり、シリア軍は、アサドとイランのクメニ師に停戦のための仲介をよびかけ、イラン側がシャバーン師を説得して、一〇月四日ダマス

の展開に続く、トリボリへのシリア軍の展開は、シリアの直接的支援によるレバノンの国家再建が大きく進んだといえる。レバノンにおける「群雄割拠」という在り方から、統一

の展開をめぐつて交渉は難航した。月末の砲撃戦は、負傷者の救出もしえないほど、激しいものとなり、シリア軍は、アサドとイランのクメニ師に停戦のための仲介をよびかけ、イラン側がシャバーン師を説得して、一〇月四日ダマス

の展開に続く、トリボリへのシリア軍の展開は、シリアの直接的支援によるレバノンの国家再建が大きく進んだといえる。レバノンにおける「群雄割拠」という在り方から、統一

の展開をめぐつて交渉は難航した。月末の砲撃戦は、負傷者の救出もしえないほど、激しいものとなり、シリア軍は、アサドとイランのクメニ師に停戦のための仲介をよびかけ、イラン側がシャバーン師を説得して、一〇月四日ダマス

の展開に続く、トリボリへのシリア軍の展開は、シリアの直接的支援によるレバノンの国家再建が大きく進んだといえる。レバノンにおける「群雄割拠」という在り方から、統一

の展開をめぐつて交渉は難航した。月末の砲撃戦は、負傷者の救出もしえないほど、激しいものとなり、シリア軍は、アサドとイランのクメニ師に停戦のための仲介をよびかけ、イラン側がシャバーン師を説得して、一〇月四日ダマス

## トリボリ市攻防戦問題

### 一、ADP（アラブ民主党）リーダーのアリ・アイド（九月二〇日）

停戦条件は、①四〇〇名のヤルムーク軍団（パレスチナ人）を撤退させよ。何故なら、彼らがトリボリ港から弾薬・支援部隊を陸揚げしては、我々を砲撃している。②シリア軍の援助の下、レバノン軍がトリボリ港を統轄すること。③IUMのトリボリ支配を終了させること。

**二 IUMリーダーのサイド・シャバン師インタビュー（抄訳）**

（一）トリポリ攻防戦  
これはベイルートで生じたと同様に、モスレムを従属させ、分断せんとする陰謀なのです。何故そんな事がレバノン再統一の力を持つているからです。それで、何としてもレバノン分割をやろうとする奴らが、このモスレムの力をくつがえそうとする訳。

イスラムは、かつて英仏両植民地主義権力が勝手に、こっそりと、アラブをカントンや小国家に分割したサイクス・ピコ密約よりも大きな共同体単位建設をめざしているのです。それ故、イスラエルがもくろむ植民地化へむけた分割に断固反対して闘うのです。

ですから、トリポリ攻防戦とは、我々に言わせれば分割支配に対する闘いであり、相手方にしたら外国勢の利益のための闘いという事になりますが、イスラエルがもくろむ輩です。そして、我々が問題にしている地域の権力とは、モスレムの役割を0にし、レバノンを紛争と内ゲバのシンボルに止まりましょう。我々が相手にしているのは、地域の権力の後楯の下にトリポリ支配をもくろむ輩です。

（二）スマルージベイルⅡ会議について  
予定したより開催が遅れたのは、会議成功にむけた準備に手間どったため。会議後、元大統領シャルル・ヘルウがTVで発表した声明の主旨は、三名の元大統領が集まってレバノン救国について会議を重ねているのは、クリスチャンとして、またはマロン派としてではないこと。かつて國の最高責任の職にあつた三人が、国民への責任を果たそうとして知恵をしぼっているのであること。具体的には、国民的対話の提案。

（三）個人として、レバノン危機解決への提案  
ジエ氏は、元大統領の会議を継続していくためには、キリスト教徒の全体会議をデイマンで開催する事が前提としている。全キリスト教党派リーダーを集めて、キリスト教徒側の声を統一していこうという主旨。まだ、具体的に、煮つまつてはいなが。レバニーズ・フォーシーズは、スマ

めておこうとする外国勢力です。

（二）ザハレ方式（シリア軍の進駐、武装ミリシア撤退）でトリポリ攻防戦

も結着がつけられるだろうとレバニス・フォーシーズ執行委員会对外局長のカリム・パクラドゥニは評していますが、我々と考え方が違うのです。

我々が反対しているのは、公正な解決策という名目で、誰かの統制・抑圧に屈せねばならないこと、面目をつぶされること、あれこれ指図をされたことだから。それに、レバニーズ・フォーシーズと我々と一緒にしないでほしいものです。奴らは、イスラエルの手先だが、我々はそんなものではありません。

我々は、自分たちはシリアの同盟者だとみなしているのです。しかし、シリアは、そうは見ていないので、我々がそういう考え方をしているという事実に立脚した上で、我々と抗争中の相手に肩入れを止め、早く我々が相手と和解できるよう、我々への対応を考慮してほしいのです。

（二）トリポリ攻防戦停戦の展望  
一ズ・フォーシーズ、ジョンブラット、レスチナへ帰還するまでは、二度と

（四）ベイルート情勢が悪化すると、トライポリ攻防戦もそれに呼応して激化するという考え方があるようですが、まるで我々が意図的にやっているかのような中傷です。我々の意見を無視して、ともかく投降せよという要求に對しては、我々としては自らの役割を果たしぬく覚悟で闘うのみです。平和回復へむけた正しい雰囲気の中で、兄弟的な対話をやりうると思っています。

また、ベイルートのキャンプ攻防戦がトリポリ攻防戦と連動しており、いずれ南部のシドン市攻防戦へと飛び火するかどうか、わかりませんね。

誰もが危険な火遊びをしていますが、火をつけて回っているのは、イスラエル。これは、明らかです。

（五）IUMとアラファト派との関係を云々されますが、何もありません。

アブ・アンマル（アラファト）は八三年にトリポリを撤退しました。パレスチナへ帰還するまでは、二度と

（四）ベイルートの緊張・紛争の元凶に沿った国家建設をベリおよびジョンブラットとの関係について展望しています。これが相違点ですね。

彼らがベイルートをめぐる攻防戦から手をひかない、関係の改善みづかみはないでしょう。何故なら、彼らは、中東地域総体再編、そこでの支配権確立を狙うある権力がレバノン、ベイルート分割を策動しているからです。そういう相手と我々は、どうしても友好関係を樹立する事はできない話です。

西ベイルートで、兄弟同士、同盟者だとみなしているはずの勢力同士の内ゲバが少しも解決されていません。これは、中東地域総体再編、そこでの支配権確立を狙うある権力がレバノン、ベイルート分割を策動している事によるのです。

（五）NUFとアラファト派との関係を云々されますが、何もありません。

アブ・アンマル（アラファト）は八年にトリポリを撤退しました。パレスチナへ帰還するまでは、二度と

（三）NUFの展望  
第二回NUF（九・一四）にジョンブラットやスンニ派代表が欠席しなくなってしまった。従って、大統領とこの人民の評議会をつなぐ機能が必要なのだ。未発表であるが、私が準備した（レバノン再建）綱領では、この機能を果たすために、副大統領制を導入する事を提案した。つまり（現行の）マロン派大統領を六大宗派から各々が一名副大統領を選んで、大統領を補佐する構造である。何故六大宗派かというと、我々アルメニア人は、数（ドルーズとギリシア・カトリック教徒を合わせた）と同人数がアルメニア人）、重要性、

カワラニ。何故なら、第一に、レバノン人には最悪の危機をのりこえていく力があると確信しているし、（対立しているクリスチャンとモスレム）双方の相違を解決していく物質的土台があると考えるからである。また、第二に中東・国際レベルでも、レバノン危機を永続化せんという陰謀を止めさせるような情勢の発展があるからである。

（四）NUFとアラファト派との関係を云々されますが、何もありません。

（四）ベイルート情勢が悪化すると、トライポリ攻防戦もそれに呼応して激化するという考え方があるようですが、まるで我々が意図的にやっているかのような中傷です。平和回復へと飛ぶことは、我々が想定しているのです。しかし、シリアは、そうは見ていないので、我々がそういう考え方をしているという事実に立脚した上で、我々と抗争中の相手に肩入れを止め、早く我々が相手と和解できるよう、我々への対応を考慮してほしいのです。

（五）IUMとアラファト派との関係を云々されますが、何もありません。

アブ・アンマル（アラファト）は八年にトリポリを撤退しました。パレスチナへ帰還するまでは、二度と

作つていけば良いのである。

#### 四 民族対話の可能性

誰もがその必要性について語るが、いつになるかの展望は出されていない。スマルージベイル会議も、現状で、民族対話を提案するには、地域的・国際的にも、不適当と考えている。レバノンレベルの合意作りに、副次的な紛争が（例えればキャンプ攻防戦）あり、反面、レバノンレベルの合意があればそういう紛争も片づくという情況がある。

民族対話会議をどこで開くのか？ レバノン内でか、またはダマスカスですか？ 我々が要請したらシリアは気で努力してくれている。しかし、レバノンは、可能な限り自力で自国の危機を解決すべきであるというのが、私の信ずるところ。

現在のレバノンの宗派政治の変更を望むのがモスレムで、維持を望むのがクリスチヤンというのは、問題の一般化になる。宗派に關係なく、改正を望む勢力と、継続を望む勢力があるのが、現実である。従って、宗派政治の廃止か否かという事でなく、共存をどう作るのかというふうな議論を望む勢力と、継続を望む勢力があるのが、現実である。従って、宗派政治の廃止か否かという事でなく、共存をどう作るのかというふうな議論をするべきであるといふのが、私の信ずるところ。

これは、全市民が祖国たるレバノンのどこであろうと、自分の住みたい所に住む権利に叶っている。

一〇、国連安保理決議四二五、四二六、五〇八、五〇九、そして五一〇にのつとり、イスラエルの占領を止めさせ、全ての外国軍隊のレバノン撤退のために、力を尽す。そして、イスラエルとの和平条約締結、もししくはイスラエルとの国交正常化をレバノンに強要せんとする全てのもくろみを拒否する。

——シリアバース党ジリア指導部、在ベイルートシリアバース党情報局局長ハイダル・ホウマニの話——  
①レバノン軍がイスラエルを主要敵とみなす事の承認  
②レバノン—シリアの経済・社会的必要性  
③レバノン—シリアの経済・社会的統合の達成

に考えていく。

各党派が提案している（改革）綱領は、一挙に現状を変革するのではなく、宗派政治の現実を考慮した過渡期を展望している。感情的、宗派的、その他の確執を取り除いていなければ、宗派政治の現実を将来もしさう。

らく認めていくのは困難ではないと思う。

二、レバノンは、民主的議会主義のつとる共和制をとる。市民の諸権利、いかなる差別も設げず全てのレバノン人に対し、正義、平等、均等な機会を尊重し、保証する事を特徴とする。

三、レバノンは、自由経済システムを堅持し、社会の生産的、人間的資源を高めていく視点に基づいて、（経済）開発・発展計画の遂行をめざす。

- 8 -

#### 五 アルメニア人の立場

レバノン議会アルメニア議員ブロック、そしてタシユナカ党が（改革）綱領を提案しているので、それに準じる。

#### イスラムの立場の基本一〇項目

（これは、八四年、ベイルートでイスラム教徒指導者たちが一堂に会し、決定したレバノン再建の立場を定めた文書）

一、レバノンは、現在国際的に承認されれたレバノン国境内に住む全レバノン人の国である。レバノンは主権をもち、自由で、独立した国家である。

二、（この間の長期的）危機の結果として生じた諸問題の解決、そしてレバノンの各地域、各グループ間の不均等を均等にしていく事を射程に、社会問題に対し、適正な注意を払う。

- 9 -

二、レバノンは、自由経済システムを堅持し、社会の生産的、人間的資源を高めていく視点に基づいて、（経済）開発・発展計画の遂行をめざす。

三、レバノンは、自由経済システムを堅持し、社会の生産的、人間的資源を高めていく視点に基づいて、（経済）開発・発展計画の遂行をめざす。

四、（この間の長期的）危機の結果として生じた諸問題の解決、そしてレバノンの各地域、各グループ間の不均等を均等にしていく事を射程に、社会問題に対し、適正な注意を払う。

- 10 -

二、レバノンは、自由経済システムを堅持し、社会の生産的、人間的資源を高めていく視点に基づいて、（経済）開発・発展計画の遂行をめざす。

三、レバノンは、自由経済システムを堅持し、社会の生産的、人間的資源を高めていく視点に基づいて、（経済）開発・発展計画の遂行をめざす。

四、（この間の長期的）危機の結果として生じた諸問題の解決、そしてレバノンの各地域、各グループ間の不均等を均等にしていく事を射程に、社会問題に対し、適正な注意を払う。

- 11 -

五、（この間の長期的）危機の結果として生じた諸問題の解決、そしてレバノンの各地域、各グループ間の不均等を均等にしていく事を射程に、社会問題に対し、適正な注意を払う。

六、連邦制、諸国家との連邦または連盟、カントン制、もしくは各地域の自治の集合体などいかなるもので連合をもたらすものであり、どん

な事があつても、うけ入れ難い。だが、行政の地方化については、遠隔地域に国家権力の存在を至らしめ、市民と政府の行うサービス業務の距離を縮めるのに有用である限りにおいて奨励する。

- 12 -

## 六 何故ソ連が?

米国は全面的なイスラエル支援とバランスを作るために、そうせねばならないと考へているのです。ソ連の了解なく、中東では、長続きする和平を作る事は不可能ですし、ソ連はシリアルを通して、強力な影響を与える事ができるのですから。

七 イスラエルの対PLO交渉拒否  
攻撃がこの間激しくなった分、ますます断固としているようですね。何故PLOは、こうした攻撃を支持するのでしょうか?

私は平和交渉を是非進めたいと考えています。何故なら、イスラエルの占領を止めさせるのに交渉でやれるのだという希望を現実に人々に示せるからです。攻撃は、一八年間も、望みもしなかったイスラエルの占領下で呻吟してきた人々の欲求のはけ口になっているのです。PLOがそうした攻撃を支持するのは、PLO内分裂を最少におさえておきたいからですね。

三 最近、マーフィ国務次官がアンマン訪問した際、国王、パレスチナとの会見を予測されつつ、結局しませんでした。何か、問題でもありますか?

誤解の嵐の中で不思議な事になっています。マーフィ国務次官との会談は、予定化されていたのです。パレスチナ人側は、はつきりとPLOが選出した、しかしPLOのメンバーでない著名なパレスチナ人(代表)が待機しておりました。ところが、PLOのメンバーでない人士という以外の条件がもち出されたのです。我々は信じています。会談の可能性は、まだ存在しますが、土地場になつて、会談を流産させたと、我らとの会談の焦点は何でしようか?米国は対イスラエル(個別)直

終目標だった訳です。明らかに、この目標からみれば、事態はたいして変化していません。しかし、今回の訪米で、現在の発展段階を確認できるものと希望します。

八 平和確立へむけてテロリズム放棄をせよという米の対PLO要求について、どう考えられますか?

接交渉を望む一方、国王は国際会議の場でイスラエルと交渉する方式を提案されていると思うのですが。提案されるに至る要因は、もし、米-PLOでないパレスチナ会談が終わり、次に国連安理会議二四二、三三八問題を片づければ(つまり、イスラエル存在権の承認を与えるということを含んで)、少なくとも、紛争当事者全員が対話をもつた、または、最底関係を作つたとでも言いますか、という事になります。これは、一步前進と信じます。

五 米、イスラエルとも、ソ連を含んだ国際会議を否定していますが。何故でしょうか?論理的に、説明してほしいものです。

六 「何故、直接交渉でやらないのか?」という答えが返ってくるのです。誰と誰が直接交渉したら良いのでしょうか?ヨルダン、パレスチナ、イスラエルの三者がですか?結構

は、その後はどうなのでしょう?ユダヤ人が建国当時持っていた原則と理念、それらと今の態度との矛盾をどう統一させていくのでしょうか?ユダヤ人自身が他の人民を抑圧し続ける事が可能なのでしょうか?これから一〇年、一五年という将来を考える時、ユダヤ人とアラブ人が半々ずつのユダヤ国家、そこにはアラブ人は二級市民として、無権利状態に呻吟し続ける、そんな社会がうまくいくでしょうか?それとも、アラブ人もユダヤ人と同じ権利が与えられるのでしょうか?(アラブとの平和条約がないこと)これは、我々にとつてもジレンマですが、イスラエルにとつてもジレンマなのです。

七 ソ連を入れないでやる方式があるのです?ソ連はイスラエルと断交中です。

ソ連を無視する事は、できない相談ですね。中東において、ソ連をはじき出す事はできません。ソ連は、中東に強力な関係をもつてているのです。中東に存在する権利を持つっています。その権利を(勝手に)否定したら、どんな和平案も陽の目を見る事はありません。

八 和平交渉復活を進める緊急性があるのでしょうか?例えれば、イスラエルは現状維持を望んでいると

い分と長く存在したままで現実は何も変わってないですね。

四 米役人とPLOでないパレスチナとの会談の焦点は何でしようか?米国は対イスラエル(個別)直

先月、私とアブ・ラハメがアンマンに行つた時、イスラエル大衆への善意の表現として、米の要求に沿う宣言をするよう、PLOに要請しました。PLOの回答は、平和交渉が

宣言をするよう、PLOに要請しました。PLOの回答は、平和交渉が動き出したら、考慮するとのことでいた。

九 PLO内の分裂は衆知の事実ですが、アラファートは、一体どうやつて(対イスラエル)停戦をパレスチナ人にうけ入れてもらえると考えているのでしょうか?

アラファートを支持しているのはパレスチナ人のうち八〇%です。もし、パレスチナの統一体(國)建設に成功すれば、アラファートは法と秩序を保ち、自らの義務をしっかりと遂行して、人民にその尊重を(要求し)実行させるつもりでいます。

私は、我々全員が、今歴史的な和平へのチャンスを目前にしていると思っています。しかし、このチャンスはしばらくしか続かないものです。イスラエルでは、稳健派のペレスの任期は、あと一年しかありません。ペレスの次にはリクドのシャミールが首相になり、西岸とガザを併合するつもりでいるのです。PLOは、現在の指導部は、人民の支持を失なう

涉を進めないと、せっかくのチャンスが過激派潮流の新しい波にのみこもれてしまっています。

二 国王が二月にヤセル・アラファートと一緒に対イスラエル交渉へむけ一米会議で、米がPLOをパレスチナ人の唯一合法の代表として承認すること、そのかわりに交渉の最終段階へむけた準備を行うことをめざしていました。つまり、関連者全員(イスラエル、ヨルダン・パレスチナ代表団)が国連安理会の監督下、ヨルダン・パレスチナ合同代表団方式というやり方に手をつけてから、

今までの成果は何ですか?

ヨルダン・パレスチナ合同代表団と一緒に対イスラエル交渉へむけ一米会議で、米がPLOをパレスチナ人の唯一合法の代表として承認すること、そのかわりに交渉の最終段階へむけた準備を行うことをめざしていました。つまり、関連者全員(イスラエル、ヨルダン・パレスチナ代表団)が国連安理会の監督下、ヨルダン・パレスチナ合同代表団方式というやり方に手をつけてから、

二月に、この数ヶ月の間に、和平交渉が何らかの恩恵を現実にもたらすとあります。イスラエル内には、和平を望んで三選される事はないのです。だから、中東問題に、従来の親イスラエル一辺倒でなく、イスラエルにもアラブにも均衡のとれた政策展開を行なう必要があります。こうした、今までない要素が積み重なっていきます。これがユダヤ教、そしてモスクム人々と、違う考え方をする人々とアラブにも均等のとれた政策展開を行なう事であります。これがユダヤ教、そしてモスクム双方(アラブとイスラエル)の青年層が過激な方向に突出しているのです。早く平和交渉を進めないと、せっかくのチャンスが過激派潮流の新しい波にのみこもれてしまっています。

一〇 もし、米議会が拒否したら？

「トリポリ戦争の再発はない」

・ノウラニ 在レバノン  
イラン代理大使（トリポリ停戦イラン側仲介者代表）

今回もうまくいかなかったら、軍備購入先として米国に接近するのは、これが最後と言つても言いすぎではないと考へています。別の所から買いますね。もう、ソ連から装備購入をやつた事がありますし、長らく招待うけて応じてなかつたので、ヨルダンの参謀総長が現在訪ソ中であります。

一一 国王支持派の人々が、今回の和平工作では、ずい分と危い網渡りと案じていますね。もう五人もヨルダン外交官が殺されています。これほどの代価に値するのでしょうか？ 危険は元より覚悟の上ですから、存在そのものは、目的ではありません。我々がめざしているのは、我々の肉体的生命が終了した後に中東の将来の世代が、我々の事を中東に平和と落ちつきを建設した力としていつまでも覚えていてくれる事なのであります。

質問・超大国間の会議議題にイラク戦争はなると思いますか？

ノウラニ・シリアとの関係は最もであり、全ての分野で最高の戦略的関係性を保持している。

質問・超大国間の会議議題にイラク戦争はなると思いますか？

ノウラニ・レーガンとゴルバチョフ会談に関する詳細な情報は未把握だが、多分議題にのぼるでしょう。会談の結果、イラクとアラブ反動組織の画策した強制的「和平」をイラクにアメリカは強要してくるだろう。

質問・アリ・ハジーミー・ラフサンジャニ師は、もしイランの石油輸出が阻止されれば、ホルムズ海峡を封鎖するといっています。この見解に関連して、イラン・イラク戦争はさらに拡大すると考えますか？

ノウラニ・ホルムズ海峡の封鎖が、国際的危機を招くことは明らかだと考える。私が大変おどろくのは、戦争の拡大を恐れている人々が依然イラクのカーゲ島攻撃や経済施設への攻撃を可能とする武器と資金援助をしていることである。それらが我々にホルムズ海峡封鎖という手段でイラク支持の諸機構へ圧力をかけるようになるのだ。

質問・トリポリ戦争停止のイランの仲介工作は完全に成功したが、さらには確実な停戦の保証とは何か？

ノウラニ・イランの停戦工作は続いている。新しい仲介工作代表团が休戦を強化し、トリポリの人々を援助すべく今週または来週到着の予定である。新代表团の中心課題は内戦で傷ついたり、難民になつたりした人の援助である。第二の質問である休戦か本当の停戦かに關しては、私は戦争当事者の各党の動向によると思っている。我々代表团と他の全ての戦争に参加した当事者は、敵イスラエルに銃口を向けるべく努力の方針を絞っている。トリポリと他の地区ではもう戦争の再開はないと考えている。とはいえさらにまたトリポリで戦争の戦災があつたとしても、新しい陣地の獲得あるいはレバノン地区での我々の強固な陣地を獲得することで停戦強化を続ける。我々は

質問・トリポリ戦争が再発した場合、イランはタヒードを支持しますか？

ノウラニ・我々の政策はさきの内戦にとつたものと同様になる。敵イスラエルと戦う回教と民族の隊列の強化統合に向け兄弟国であるシリアとタヒードの指導者サイード・シャバーン師と共同の努力をするということである。

質問・トリポリ戦争が再発した場合、イランはタヒードを支持しますか？

ノウラニ・我々の政策はさきの内戦にとつたものと同様になる。敵イスラエルと戦う回教と民族の隊列の強化統合に向け兄弟国であるシリアとタヒードの指導者サイード・シャバーン師と共同の努力をするということである。

質問・トモーニング誌に述べているのは、この戦争は長期消耗戦で戦争は続ける。強要される全ての「平和」解決は拒否する。イランの終結条件は明確だし、何回も表明してきました。我々はイラク政権を打倒したい。我々がこの要求を主張するのは、イラクの現政権が権力の座にある限り、イスラム革命に反対し続けるだろうし、我々は攻撃をやめるつもりはない。これが適切な回答と思うが、我々は戦争と流血を好むものではないことをはつきりいいたい。あなたたちは戦争の再開はないといつた。しかし、敵国は人民の強固な闘争心に我々は感謝しています。敵はイランが消耗戦で疲弊するのを見込んでいます。しかし、我々は奴らの陰謀に対抗し得ているし、回教共和国の利益を守っている。それは、もし強要される「和平」をうけ入れば、イラン革命とイラン共和國は崩壊し、損失は一方的なものになります。

質問・シリアーイランの関係をどう評価していますか？

ノウラニ・ソ連との関係は、よき隣国であると特徴づけられます。両国の利益のために経済的関係性も強固です。我々の関係性は支配でも被支配でもないものです。

質問・米国と関係性についていふと、イスラム革命以前の被抑圧人民に対する抑圧と強權の関係であった。米国は両国相互の利益になる関係性を望んでいなかつた。テヘランの米国大使館占拠時、米国の内政干渉の度合は、今イラクとの戦争で経済的に消耗されるように、イスラム革命とモラル、その精神的基盤を弱くさせるために新たなかつた戦争を勃発させることは明らかである。

質問・政治分析家たちによれば、超大国はイラン・イラク戦争の継続を望んでいるといっています。超大国はガルフ諸国とともにイランとイラクの経済的崩壊を望んでいるといつてゐる。これは、我々はその宗教を採用し、回教徒による組織が、いかなる有効な役割も果たさなかつたことは残念に思う。しかし、今回のトリポリ内戦で、イラン回教共和国とイラン政府が回教徒の福利のために戦争を停止させたことで神に感謝する。

質問・政治分析家たちによれば、超大国はイラン・イラク戦争の継続を望んでいるといっています。超大国はガルフ諸国とともにイランとイラクの経済的崩壊を望んでいるといつてゐる。これは、我々はその宗教を採用し、回教徒による組織が、いかなる有効な役割も果たさなかつたことは残念に思う。しかし、今回のトリポリ内戦で、イラン回教共和国とイラン政府が回教徒の福利のために戦争を停止させたことで神に感謝する。

質問・トモーニング誌に述べているのは、この戦争は長期消耗戦で戦争は続ける。強要される全ての「平和」解決は拒否する。イランの終結条件は明確だし、何回も表明してきました。我々はイラク政権を打倒したい。我々がこの要求を主張するのは、イラクの現政権が権力の座にある限り、イスラム革命に反対し続けるだろうし、我々は攻撃をやめるつもりはない。これが適切な回答と思うが、我々は戦争と流血を好むものではないことをはつきりいいたい。あなたたちは戦争の再開はないといつた。しかし、敵国は人民の強固な闘争心に我々は感謝しています。敵はイランが消耗戦で疲弊するのを見込んでいます。しかし、我々は奴らの陰謀に対抗し得ているし、回教共和国の利益を守っている。それは、もし強要される「和平」をうけ入れば、イラン革命とイラン共和國は崩壊し、損失は一方的なものになります。

質問・シリアーイランの関係をどう評価していますか？

ノウラニ・ソ連との関係は、よき隣国であると特徴づけられます。両国の利益のために経済的関係性も強固です。我々の関係性は支配でも被支配でもないものです。

質問・米国と関係性についていふと、イスラム革命以前の被抑圧人民に対する抑圧と強權の関係であった。米国は両国相互の利益になる関係性を望んでいなかつた。テヘランの米国大使館占拠時、米国の内政干渉の度合は、今イラクとの戦争で経済的に消耗されるように、イスラム革命とモラル、その精神的基盤を弱くさせるために新たなかつた戦争を勃発させることは明らかである。

質問・政治分析家たちによれば、超大国はイラン・イラク戦争の継続を望んでいるといっています。超大国はガルフ諸国とともにイランとイラクの経済的崩壊を望んでいるといつてゐる。これは、我々はその宗教を採用し、回教徒による組織が、いかなる有効な役割も果たさなかつたことは残念に思う。しかし、今回のトリポリ内戦で、イラン回教共和国とイラン政府が回教徒の福利のために戦争を停止させたことで神に感謝する。

両国の平等が成立しない限り、米国は関係性を確立しようとする。我々はそうである限り、米国とのどんな関係も成立しないと考える。

一 ラシッドカラミ首相の指導のもとに、イスラム勢力からバース党、アラブ社会党、アラブ民主党、レバノン共産党、社会労働党が参加し、調整委員会を作る。その使命は、トリポリの正常化全勢力間の共同の確立、保安委員会を作ることである。この委員会はその使命を実現するために、その他の委員会を設置する。保安委員会が調整委員会によって設置され、それは保安実施室と共同

二 北部シリア軍の指揮官とトリポリのレバノン警察の指揮官が指導する保安実施室を設置する。首相が任命するその他の武官が保安実施室のメンバーとなる。保安実施室はトリポリ市のすべての保安実施の責任を負う。この委員会はその使命を実現するために、その他の委員会を設置する。保安委員会が調整委員会によって設置され、それは保安実施室と共同

三 全面停戦。すべての武器の存在をなくし、すべての戦士はその陣地から撤退し、その陣地を保安実施室によって編成された保安隊にあけわたります。

四 どのような武器も携帯を許されない。保安隊はすべての武器を没収しなければならない。保安隊は武器の保護のもとで、シリア軍に渡す。これらの武器はその武器を所有している諸組織の名において、倉庫に保管され、保安実施室はどのように処置をしてすべての武器を没収する。所有者に渡さなければならない。保安実施室は、保安のための銃はその組織の倉庫に保管され、保安実施室はどのようないつでも、それをチェックする権利を持ち、武器が持ち出されたり、使われたりしないように保証する。

五 個人用武器（ピストル、自動小銃）はその組織の倉庫に保管され、保安実施室のコントロール下におかれなければならない。保安実施室は、保安実施室のコントロール下におかれなければならない。保安実施室は、保安のための

九・一三（金）

(A) PSPは、西ベイルートからのPSPミリシア一部撤収決定発表。  
(B) ベイルート在住ギリシャ人射殺体で発見される。

(C) フセイン、エジプト訪問を突然発表。

九・一四（土）

(A) シュトウ云でLNUF会談、四項目声明発表（ジョンプラット病欠）。次の会議で役員決定予定。会談後、ナビーハ・ベリはダマスカスへ。

(B) ダマスカス シリアー・レバノン経済協力問題について関係閣僚会議。

(C) ① フセイン・ムバラク会談（カイロ）。一九八四年九月から五回目のフェインのエジプト訪問。

(D) スイス首相、ヨルダン訪問。外相、首相、皇太子と会談。フセインとも会談予定。

(E) 国連 イスラエルの西岸・ガザにおけるパレスチナ人住民への弾圧非難決議に米が拒否権発動。

九・一五（日） イスラム暦新年

(A) ① 南部サイダ東でSLA対PLA（人民解放軍）砲撃戦。D.P.午後六時から砲撃戦、戦場拡大、少なくとも六人死亡。

(B) トリポリ攻防戦激化。IUM対A

(C) アルジェ PFI-DFリーダー会

(D) ローマ カフェに手榴弾。三九人

(E) チュニジアのムザリ首相、アラブ

リゲのクレイビ会長。アサド後アンマンへ。

(F) ベリ、PN-SF代表と会談（ベルート）。

(G) 米ユダヤ人代表団（米ユダヤ会議）－フセイン（ヨルダン首相）（ナセリスト）代表が会談。

(H) レバノン在住伊人誘拐する。

(I) ベイルート・PSP、レバノンパ

（ナセリスト）代表が会談。

(J) リファイ会談（この代表団は、エジプト・ヨルダン・イスラエル工作中）。

(K) ベリ、PN-SF代表と会談（ベイ

ルート）。

(L) ベリ、PNSF代表と会談（ペイ

ルート）。

(M) ベリ、アサドによつて歓迎された。

九・一六（月）

(A) ① トリポリ攻防（死者三四人以上）。

(B) ベイルート グリーンラインで銃撃戦。

(C) アルジェ PFI-DFリーダー会

(D) ローマ カフェに手榴弾。三九人

(E) チュニジアのムザリ首相、チエコ訪問。

(F) サウジのジェッダで、シリア・ヨ

た保険計画をたてなければならない。員会に参加しているすべての組織に保証される。

八 調整委員会に参加している諸組織間で即、一連の会議を開始する。それは、すべての組織の間で和解すること、信頼と共同をかちとるためである。

九 何者も、トリポリにおける最近の流血の衝突について告発を続けた。これは、すべての組織の間で和解すること、信頼と共同をかちとるためである。

九・一七（火）

負傷。レバノン生まれのパレスチナ人青年、逮捕される。

九・一八（水）

アサド大統領の親書を携え、リビアへ。

九・一九（木）

シリアのカッダム第一副大統領、アサド大統領の親書を携え、リビアへ。

九・二〇（金）

シリアエルは、ユダヤ教新年。

九・二一（土）

シリアエルは、五月の捕虜交換で解放されたパレスチナ人政治犯のうち一人をヨルダンへ追放。

九・二二（日）

シリアエル 八月度生活費指数三五九・九%。

九・二三（月）

シリアエル 爆破。イスラエル大使館へも小包爆弾（未遂）。

九・二四（火）

シリアエル 爆破。イスラエル大使館へも小包爆弾（未遂）。

九・二五（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・二六（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・二七（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・二八（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・二九（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三〇（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三一（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三二（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三三（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三四（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三五（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三六（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三七（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三八（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・三九（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四〇（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四一（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四二（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四三（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四四（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四五（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四五（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四六（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四七（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四八（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・四九（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五〇（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五一（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五二（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五三（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五四（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五五（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五六（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五七（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五八（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・五九（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六〇（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六一（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六二（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六三（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六四（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六五（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六六（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六七（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六八（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・六九（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七〇（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七一（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七二（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七三（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七四（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七五（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七六（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七七（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七八（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・七九（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八〇（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八一（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八二（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八三（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八四（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八五（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八六（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八七（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八八（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・八九（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九〇（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九一（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九二（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九三（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九四（火）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九五（水）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九六（木）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九七（金）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九八（土）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・九九（日）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

九・一〇〇（月）

カサブランカサミット決戦による（マリアム・ケイレッディン烈士INSNP）。

ルダン両国首相、関係改善に合意。  
九・一八(水)

(A)①シリアのトラス国防相、アテネ

訪問。

②黒い九月、一五周年記念日。(ヨルダンからパレスチナ武装勢力撤退した—七〇年)。

③アテネでアラファト派といわれるミシェル・ニメリ(アル・ナシラ誌発行者)射殺さる。ベイルートでは「黒い九月」が処刑を発表。

九・一九(木)

①南レバノンで決死闘争。今回は初めてエジプト青年。「アラブエジプト協会」なる(アリ・トルバ・ハサン烈士)。

②トリボリでADP側はIUMとの和平条件発表。

③①ムバラク、外遊開始(スペイン、ポルトガル、米、仏訪問予定)。

②サッチャー、ヨルダンに三億六〇〇〇万ドルの兵器売りこみに成功。

九・二〇(金)

①トリボリ攻防戦、この六日間の死者・負傷者三〇〇人以上。ADPリーダー・アリマイド和平討議にむけて条件提案。四〇〇人のパレスチナ戦士「ジャルマック軍団」

から武器・弾薬を搬入してADP

業相会議。GCC工業開発戦略について検討。

九・二五(水)

①ラルチカ港(キプロス)で、イスラエルのヨット制圧作戦。パレスチナ人三人の部隊。要求は、捕虜釈放。三名射殺。投降。

②エルサレムのアル・ファジル紙、ゴランのシリア人民の対イスラエル鬭争を詳しく述べた。同盟風の村落評議会により親イスラエル分子を集め、エセ民主主義。シリア人は三五名。

七六年來、ゴランから追放された七六年來、ゴランから追放されると、ムバラクは対エジプト米ローンの利子引き下げを米財務長官に懇願。

④シリアに東独の空軍司令官訪問。

⑤アブ・ダビのイッチャード紙によると、ムバラクは対エジプト米ローンの利子引き下げを米財務長官に懇願。

⑥サウジの国防・航空相スルタン・ビン・アブダルアジズ王子、訪英出発。英からの兵器買いつけのため(四億三〇〇万ドル相当という説あり)。トルネード戦闘機四八機、迎撃機二四機のみこみ。

⑦ル・モンド紙の記事内容を仏政府が確認。対イラクミラージ戦闘機

を砲撃している」。IUMリーダーを砲撃している」。IUMリーダー

クメーイニ師はアヤトーラ・

戦のための援助要請。

②少年射殺(ガザ)。検問所で無差別射撃し、父親は軽傷であった。

③ユーズワイヤー誌スッパぬき。

④WACS売却を決定(サッチャー

のサウジへのトルネード戦闘機、

ホーク訓練機売却への報復措置)。

⑤ムバラク、訪米スタート。

⑥①サッチャーの対PLO政策に對し、イスラエル政府筋が批判「非

生産的だ」。

⑦①サッチャー英外相ハウは、ヨルダン-パレスチナ合同代表団と会談するだろう。

九・二一(土)

①南部の「セキュリティゾーン」

アマル、イスラエルの偵察ヘリコプター撃墜を発表。イスラエル側は、機関銃攻撃をうけたが、損害は微小と発表。

②クウェートのサバハ首長からアサド大統領へ親書。

③①エジプト外相ガリ、ヴェネズエラ訪問。ヴェネズエラ大統領をエジプトへ招待。

九・二二(日)

①アミン・ジェマイエル、大統領就任三周年演説「シリアとの自然かつ特別な関係でなければならぬ」

②トリボリの戦闘続く。ADP、港を砲撃。

九・二三(月)

①イスラエル「領」アツカで爆弾攻撃。

②パリ訪仏中のジェマイエル大統領インタビュー「シリア-レバノン両国の経済・軍事関係強化している」

③ローマ教皇特使ブライジ神父が就任三周年演説「シリアとの自然の対PLO政策を非難。「西側諸国」の共通の立場から大きく外れる

④WACス派枢機卿コレインへの親書も渡す。

⑤①イスラエル・ラジオ一九八五年度一八月の反イスラエル攻撃一〇〇件。

⑥①イスラエル大統領と会見。近く

⑦外相代理モーシェ・アレンズが英の対PLO政策を非難。「西側諸

⑧①シーザー派のアンシュラ祭。

⑨①イスラエル・ラジオ西岸北部ガリラヤ区にカチューシャロケット砲攻撃を二三日(土)にうけた。

⑩①ダハラン(サウジ)でGCC工

F LP系の新聞であるという名目。

⑪①オーマンの外務国務相、パレスチナ人にイスラエルとの直接対話を提唱(国連に参加中)。

⑫キプロス政府ラルナカ港での闘争主体ひき渡し要求(イスラエル)を拒否。根拠一三人のうち一名はイギリス人であることがわかつたので。英のニコシア在高等評議会は、同人のひき渡しを要求するのみ。

九・二九(日)

①①レバノン各紙(左派、民族系)、アサド大統領のNHKのインタビューを評価。

②カラミ首相、英社民党党首オーヴィーと会談(ベイルート)。

③南部、イスラエル-SLAの砲撃に対抗し、レジスタンスがSLA拠点を攻撃。

④ハイファ港の市場で爆弾。

⑤①イスラエル、南レバノンのビント・ジベイル町を数日間封鎖した後、突入(ゲリラ狩り)。SLAと共働して数カ村砲撃。

⑥①ベイルートでソ連外交官四名、誘拐される。

⑦①フセイン国王、国連総会で演説。

九・二七(金)

①ベイルート空港閉鎖。ベイルート、トリボリで砲撃戦。

九・二八(土)

②N HK(TV)、アサド大統領に

インタビュー。英中道右派民社党委員会。

③シリア-エジプトアラブ統一共和

国分離二四周年記念日。

④①ロイター、エルサレムのアダル

ブ紙、三日間の発行禁止処分。D

は、トリポリ攻防戦でソ連がシリアに圧力をかけ、I U Mへの攻撃を止めさせること。

(B)①イスラエル、チュニス郊外のP L O司令部爆撃。レーヴィン・テロリズムに対する当然の措置。

## 一〇・二(水)

(A)①ペイルートで誘拐されたソ連外交官(四名)のうち一名、射殺され発見される。

(B)①イスラエル・ラビン・チュニジアのP L O本部爆撃は、対テロ報復の一部。イスラエルはシリアとの直接対峙に備えておいた方が良い。そして、シリア軍をレバノンとシリアに分散配備されておくことが望ましい。

②五月の捕虜交換で解放されたパレスチナ人政治犯、さらに三名、ヨルダンへ追放される。

一〇・三(木)

(A)①トリポリのI U Mリーダー、シヤバーン師、アサド大統領と会見。

②トリポリ停戦合意(九項目)成立。武装解除。合意調印者は、I U M、A D P、レバノン共産党、アラブ・バース党、シリア民族主義社会党(レバノンに本拠をもつ)。

①エジプトの文化相声明「八六年ること。」  
bイスラム聖戦機構は、

度カイロ書籍展」にイスラエル参加禁止。

度カイロ書籍展」にイスラエル参

## 一〇・四(金)

(A)①ペイルートのソ連大使館員一部ダマスへの疎開。

(B)②イスラム聖戦機構、米人をC I A要員として処刑したことなどを発表

(C)①国連安理会イスラエルのチュニジア爆撃非難決議採択(一四対〇、棄権のみ)「侵略行為である」(ただし、決議草案にもりこまれていた、イスラエルに対するチュニジアの損害賠償問題は削られた)

(D)①伊外務省スポーツマンイスラエル観光相の伊訪問予定を無期限延期させた。

## 一〇・五(土)

(A)①エジプトのシナイ半島で、エジプト人警官がイスラエル観光客グループに発砲。七名を殺す。

②カイロ 数千人の学生がイスラエル大使館へ抗議デモ。

一〇・六(日)十月戦争記念日

(A)①イラン副外相、U A E訪問。

②ソ連外交官誘拐グループが新要求。  
a米ソはレバノン問題の解決をす

米市民人質釈放しないこと。  
(B)①イスラエル人三人の死体、西岸と中央イスラエルで発見される。

(C)①G C C 参謀総長会議、リヤドにて開催(一〇月六日~八日)。

(D)①イタリア客船アキレ・ラウロ号(船客五〇〇余名)、エジプト領海でパレスチナ人ゲリラにのっとられる。要求は、イスラエルから五〇

名のパレスチナ人捕虜を釈放させること。

(B)①イスラエル発表「三人にイスラエル人『殺害』に関連して、四人のパレスチナゲリラを殺した」

(C)①エジプト大統領、チエコ訪問へ出発。

(D)①シリアのアサド大統領、チエコ訪問へ出発。

## 正誤表

## 中東レポート第2号

13頁 第1段 アブ・ムサ派→派削除

13頁 第2段 「人民闘争戦線サミール・ゴーシュ」を旧民族連合派の項から旧民主連合派の項へ移して下さい。ちなみに第1号、9頁にも同じミスあり訂正します。

13頁 第3段22行目 イラク→ハイテク

17頁 第3段23行目 ムスタファ・トラマ→ムスタファ・トラス

## 第3号

4頁 第1段6行目 則が→則削除

4頁 第4段22~24行目 「反主進歩勢力はシリアとの共同を強化しつつ」削除

17頁 第1段3行目 の一闘い

17頁 第1段4行目 でしかない→である

17頁 第1段9行目 ハンス→バース

17頁 第3段29行目 A M B → A U B

17頁 第4段10行目 なで→など

18頁 第1段15、16行目 米航空会社シナゴーブ→米航空会社シナゴグ

18頁 第2段1行目 組織→削除

18頁 第2段26、27行目 いう立場は、立派なもの」とシャミールの立場→ルが恩赦キャンペーン展開中と語る。「法を個別に執行するのは